

地球温暖化・気候変動による干ばつと食料危機が  
恒常化しつつある中、超多収穫飼料米の遊休水田での  
生産拡大が世界的食料危機への確かな対策となります!!

消費者の期待高まる

## 飼料用米を活かす日本型循環畜産 推進交流集会へのご案内

☆お米で育った“卵、牛乳、鶏肉、豚肉、など”試食あり!

日時:2013年3月23日(土) 午前11時~午後5時半

場所:東京大学 弥生講堂・一条ホール

東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学弥生キャンパス内

参加費:無 料 (定員 300 名)

飼料用米の生産、飼料用米給与の畜産物の  
生産と消費の拡大を進めて行きましょう。

第1部 お米で育てた「卵、牛乳、鶏肉、豚肉  
やそれらの加工品」の試食・試飲と展示

第2部 消費者、稲作農家、畜産農家、流通関  
係者及び農業関係者などの実践報告及び討  
論集会

＝記念講演＝

「循環型飼料米生産のグローバル的意義」

東京大学大学院 鈴木宣弘 教授

主催:超多収穫米普及連絡会

協賛:日本生活協同組合連合会

パルシステム生活協同組合連合会

生活クラブ事業連合生活協同組合

連合会

東都生活協同組合

日本鶏卵生産者協会

(社)日本草地畜産種子協会



地下鉄南北線「東大前」駅下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

# ○プログラム

## 第1部：11時～12時30分

試食コーナー：お米で育てた卵、鶏肉、豚肉、牛乳、などの試食・試飲

展示コーナー：飼料用米の生産・給与・普及活動、飼料用米の試験研究成果などをパネル展示で紹介

## 第2部：12時45分～17時30分

飼料用米を活かす日本型循環畜産の発展をめざして消費者、稲作農家、畜産農家、生協関係者、研究者などが報告し、会場の参加者も含めた討論集会を行います。

1. 主催者挨拶： 超多収穫米普及連絡会、協賛団体挨拶
2. 記念講演：「循環型飼料米生産のグローバル的意義」  
東京大学大学院 国際環境経済学研究室教授 鈴木宣弘 氏
3. 実践報告：「耕畜消連携で飼料米生産支援に取り組む生協」  
パルシステム生活協同組合連合会産直推進部部长 高橋宏通 氏  
東都生活協同組合商品部食品グループ マネージャー 近藤慶太 氏  
「生産者と消費者の提携が育んだ飼料用米」  
庄内みどり農業協同組合 営農販売部 那須耕司 氏  
「飼料用米を給与した『こめ育ち豚』の評価」  
(株)平田牧場 池原 彩 氏  
(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 提携)  
「稲作農家と畜産農家が連携した地産地消の取り組み」  
茨城県石岡市経済部農政課主幹 島田智弘 氏  
内外食品株式会社顧問 木村友二郎 氏
4. 生協の飼料米生産支援全国調査報告  
日本生活協同組合連合会 会員支援本部 内山和夫 氏
5. パネル討論：〔コーディネーター〕東京農業大学農学部准教授 信岡 誠治 氏  
〔パネラー〕記念講演者の鈴木宣弘教授、事例発表者、消費者団体代表、  
農林水産省生産局畜産部草地整備推進室長・小倉弘明氏
6. 閉会挨拶： 農林水産省、日本鶏卵生産者協会

参加申込先：一般社団法人 日本鶏卵生産者協会

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 5F 電話 03-3297-5508

上記へ郵送 又は 03-3297-5519 へ FAX して下さい。〆切は3月18日(月)

参加申込みいただいた個人情報、本集会の運営に係ること意外には使用いたしません。

お名前	ご所属	お電話番号

◎この件の問合せ先：遠藤 042-676-5363、090-4391-9307